



山梨県内で避難生活を送る人々を想う ～避難者の孤立を無くし、居場所と出番をつくるために～

東日本大震災による県内避難者に面会して

いま山梨県内で、東日本大震災の被災者・約9百名の方が避難生活を送っています。そうした中、今月半ばに、被災して故郷で生活や仕事ができなくなり、県内に避難してきた方に会いました。

その方は、県内の知り合いを頼って夫婦で避難してきたものの、収入が無くなり家賃を払えなくなると、その人が管理するアパートから出て行くように言われた、とのことです。

住まいを追われて途方に暮れていたところ、近所の人が声をかけてくれて、無償で自分の家の一部を提供してくれました。その家庭も経済的にぎりぎりの生活とのこと。今日明日の食べ物にも困窮している夫妻のために奔走して食糧を調達したり、仕事探しも一生懸命手伝ってくれています。

そうして仕事を探したもの、なかなか就職することができません。お金の蓄えが底をつけ、困り果てて市役所に生活保護の申請をしましたが、なかなか受理してもらえず、更に担当者から相手を見下したような態度を取られて精神的にも相当傷ついたとのことです。

行政（担当者）は相談に来る人の“心の苦しみ”に共感できる心（＝人権感覚）を持ってほしい

行政の中でも様々な部署がありますが、特に福祉関係の窓口は、生活や心に悩みを抱えた多くの人が来所します。

その中で、職員に「相手を思いやる優しい気持ち」（＝人権感覚）があるかないかで、ときとして相談者の一生を左右するほどの影響が出てくるのではないかでしょうか。

まずは、相手（弱者）の立場に立って接してほしいのです。こうした人の中には、どこか後ろめたさを感じて来る人もいることでしょう。

たとえ、どんな人がきても“同じ目線”で応対してほしいのです。

優しい気持ちがあれば、たとえすぐに根本的な解決策を示すことができなくとも、「なんとかしたい」という誠実な姿勢は相手に確実に伝わるはずです。

書類や規則だけを見て仕事をするのではなく、相手の人間をしっかりと受けとめてほしい。そして、市民の命と幸せを守ることに生きがいや使命感を感じて仕事をしてほしいと切に思います。



被災者（避難者）の“居場所”や“出番”を創ろう！

東日本大震災の被災者の方は、被災する前までは普通の暮らしをしていた方々です。

できれば、避難先で地域のためになる仕事や活動をしていただくことで、本人の自立につながり、移住した地域での“居場所”や“出番”づくりにも役立つはずです。

例えば、北杜市須玉町津金地区に福島県から避難してきた3家族が、地域の人から勧められて江戸時代に建てられた古民家の再生に関わり、厨房が完成し飲食・宿泊業を行う農家民宿「なかや」を開業することになりました。

避難者を支援しているキーパーソンの方は「被災者への一方的支援ではなく、相互対等の互恵関係を目指しています。みなさんの応援で“なかや”は大きく成長します。津金地域だけでなく、多くの個人・企業の皆様よりの支援が寄せられています。」とおっしゃっています。

このように、私たち県民と東日本大震災からの避難者が手を携え、一方的な支援する側、される側の関係ではなく相互に支え合える地域づくりを県下各地に広めていくことが大切と感じています。

〒400-0831 甲府市上町 601-4 甲府市環境センター内 なでしこ工房1階事務室

国連NGO 横浜国際人権センター・山梨ブランチ （代表・横山 隆史）

（Tel・055-243-8563、fax・055-243-8564）